

チャレンジ

旭川大学高等学校 ライセンスコースだよりNO12(201)2018.1.15

「楽あれば苦あり 苦あれば楽あり」

情報処理検定試験が1週間後に迫っています。その1週間後には簿記検定試験、そして商業経済検定試験と続きます。

「先憂後楽」という言葉がある。大辞泉によると、国家の安危については人より先に心配し、楽しむのは人より遅れてであるべきだ。との政治家らの心構えだ。転じて先に苦労すれば後で楽ができるとの意味にも使われるようになった。「楽あれば苦あり、苦あれば楽あり」である。ただ、このことわざを巡っては、最初の「楽」と後の「楽」は意味合いが違ふと、国文学者の金子武雄氏は自著「日本のことわざ」で説明する。先の楽は「怠惰」、後の楽は「幸福」に近い。同じように苦についても、先の苦は「不幸」、後の苦は「勤勉」

に近いとし、「怠惰な安楽は不幸な苦勞のもとであり、勤勉な苦勞は幸福な安楽のもとである」と読み解く。(道新より)

みなさんはこれからまさに「勤勉な苦勞」の真っ最中になります。テレビが見たい、ゲームをしたい、遊び回りたい。そんな気持ちをくっくつと封じ込めて机に向かうことでしょう。人間は弱い。できることなら楽をしたいし、つらいことは少しでも避けたいのが人情だ。

しかし、3年生にとっては最後の検定試験。勤勉な苦勞の先には、きっと幸福な安楽が待っている。

今年は寒暖の差が大きく、くれぐれも体調に気を付けて頑張ってくださいと思います。

全商検定1級3種目取得まで ～スマホの誘惑断ち切る～

1週間後に迫った全商検定、1級3種目取得まで後1種目の生徒が2年生では11名、3年生は3名います。過去には9種目すべて取得した先輩もいます。

スマホ利用と中学生の成績の関係で勉強時間2時間以上でスマホ利用時間が1時間未満の数学の平均点75点、4時間以上は60点を下回りました。結果に差が出たのは集中力もあるでしょう。受験生にとってはスマホから離れることはとても大切。なぜかという試験会場でスマホは絶対に触れない。

全商英語検定試験 合格者

(12月17日実施)

3系及	大戸遙奈 ^{1,2}
小笠原里莉 ^{1,2}	鈴木来央 ^{1,2}
中川優有 ^{1,2}	中平さくら ^{1,2}
鳴海来夢 ^{1,2}	藤田優香 ^{1,2}
三浦蘭 ^{1,2}	安彦雄太 ^{1,2}
荒川大成 ^{1,2}	柿崎舞斗 ^{1,2}
大下美咲 ^{1,3}	清川彩夏 ^{1,3}
鈴木那緒奈 ^{1,3}	山田真衣 ^{1,3}
佐藤大洋 ^{1,3}	野村竜杜 ^{1,3}

い。"スマホがないと落ち着かない"状況だと試験本番で力を発揮できない。スマホの誘惑を断ち切るためには、"スマホ断ちを周りに伝える"。検定1週間前、とか、もうスマホを使いませんと宣言することでやめやすい環境、封印しやすくなる環境ができます。

3種目取得者は、卒業式の際に全国表彰を受けることになります。3回ある検定試験をムダにしないよう、今日からしっかり勉強して下さい。冬休み講習にも積極的に参加していました。

1月21日(日)
全商情報処理検定
1月28日(日)
全商簿記検定
2月4日(日)
全商商業経済検定